

別記様式 2 - 2 号

視 察 研 修 等 報 告 書

令和 6 年 10 月 25 日

坂井市議会
議 長 戸 板 進 殿



会 派 名 チャレンジさかい
報 告 者 三宅小百合

1 日 時 令和 6 年 10 月 18 日(金) 1 日間

2 視察研修先 東京ビッグサイト 東京都江東区有明 3 丁目 11-1

3 視察研修内容 Femtech Tokyo 女性のウェルビーイング推進 EXPO
「女性の健康ナショナルセンター（仮称）の役割と展望
～フェムテックの可能性を見据えて～
(国研) 国立成育医療研究センター女性の健康ナショナルセンター
設立準備室理事長特任補佐 小宮ひろみ
「官民連携で目指す更年期の健康課題解決と女性活躍推進」
経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課
課長補佐 室 紗貴

4. 参加者 三宅小百合

5. 内容詳細

「女性の健康ナショナルセンター（仮称）の役割と展望
～フェムテックの可能性を見据えて～」

講師：(国研) 国立成育医療研究センター女性の健康ナショナルセンター
設立準備室理事長特任補佐 小宮ひろみ

女性の健康総合センター(Integrated Center for Women's Health: ICWH)は、国立成育医療研究センターに「女性の健康」に関するナショナルセンター機能を持たせ、女性の健康・疾患に特化した研究の推進や、女性の健康に関わる最新のエビデンスの収集・情報提供を行うことを目的に設立された。

女性の健康の定義とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること。

女性は年齢によるホルモンバランスの変化とともに、特有の健康課題があり、大きなものに月経関連症状、更年期症状がある。特に月経に関しては、個人差はあるものの、おおよそ 12 歳から 38 年間の付き合いとなり、多くの女性が月に 1 回、3 日から 1 週間にわたって、月経及び関連症状に悩まされている。この女性特有の病気の負荷、それによる労働の損失に注目し、女性医学、性差医学、男女の生物学的および生理化学的な違いを踏まえた日本で初めての女性の健康課題に特化した組織を設立した。

具体的には、①女性の健康に関するデータの構築、②女性のライフコースを踏まえた基礎研究・臨床研究の積極的推進、③情報収集・発信、人材育成、政策提言、④女性の体とこころのケア、⑤女性の健康に関する臨床機能の 5 本の柱を軸に事業を進める。

「官民連携で目指す更年期の健康課題解決と女性活躍推進」

経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課
課長補佐 室 紗貴

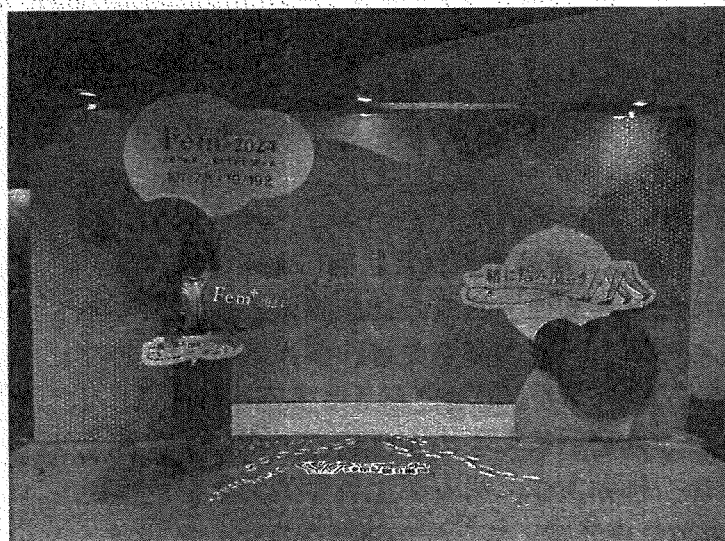
女性の活躍推進や男女共同参画の視点から、女性が社会で更に活躍し続けるために、今後必要となる施策は「健康」をキーワードに、これまで男性目線で整えられた職場を働きやすくする必要がある。経済産業省では、令和 3(2021) 年度から、フェムテックを活用した働く女性の就業継続支援事業（補助事業）を実施している。働く女性が妊娠・出産や更年期等が原因となり望まない離職等を防ぐため、女性特有の健康課題を女性本人だけではなく企業や社会全体で共に解決していくアプローチとしてフェムテックの活用が期待されている。

6. 所感、感想

これまで人に話すことをタブーとされていた女性の健康やライフイベントに関わる悩みを“みんなで”共有し、助け合う「新しい当たり前」をつくるムーブメントが始まっている。これからは企業や自治体、周りの人の理解により、ひとりで我慢したり、何かを犠牲にしたり、何かをあきらめたりすることなく妊娠、出産、更年期も仕事が両立できるよう環境を整えていく必要がある。そしてそれは、女性だけではなく誰もが働きやすい環境をつくり、企業の価値、社会の価値につながる。またフェムテックは、産業としては始まったばかりで、女性の起業チャンスにもつながると考える。

本市は共働き日本一の背景があり、多くの女性が就労をしていることから更なるフェムテックの活用が期待される。

7. 添付書類 チラシ 1 枚



会 派 内 供 覧